

原の辻遺跡（閨繰遺跡）令和4年度調査成果

「しまの遺跡の魅力」西ノ股遺跡・ヌルヘノクチ遺跡

令和4年度

県内発掘調査成果概要

島原道路本調査（下雨粒木遺跡・楠沢上遺跡、寺中A遺跡）、早岐瀬戸遺跡、石屋洞穴ほか試掘・範囲確認調査

水中遺跡分布調査・水中考古学体験講座

しまの巡回展・講演会、釜山博物館との共同研究

大串遺跡（五島市）

#18

高校生の研究発表・学校支援 / 保存処理について / オープン収蔵展示紹介

原の辻遺跡（閨繰遺跡）令和4年度調査成果

原の辻遺跡（閨繰遺跡）の発掘調査を、11月24日から12月23日にかけて実施しました。令和4年度の調査は、令和3年度に実施した調査区を拡張するかたちで行いました。その結果、弥生時代のほぼ完形に近い小児甕棺が少なくとも2基検出されました。これにより原の辻遺跡北側の丘陵部が墓域として利用されていたことが、初めて明らかになりました。

また、中世のピット群が検出されたことは、令和3年度の調査で土師皿や中国・朝鮮半島からもたらされた貿易陶磁器が出土したことに加えて、未だ謎多き「中世の壱岐」の実態に迫るヒントになると思われます。



「しまの遺跡の魅力」探求！

令和4年度から、「しまの遺跡の魅力」探求事業として、壱岐の原の辻遺跡に加え、離島部（対馬・五島地域）の調査研究を開始しました。五島地域では、8月3日から19日にかけて、新上五島町浦桑郷に所在する西ノ股遺跡の発掘調査を、対馬地域では10月17日から11月4日にかけて、峰町三根に所在するヌルヘノクチ遺跡の発掘調査を行いました。



ヌルヘノクチ遺跡

ヌルヘノクチ遺跡は三根湾に注ぐ三根川の左岸に位置し、周辺には三根遺跡やガヤノキ遺跡、サカドウ遺跡など弥生時代の集落や墳墓が多く見られます。「魏志倭人伝」に記されている對馬国の中心地と目される三根川流域の集落の発見を目的とし、13箇所の試掘坑を設定し、調査を行いました。大部分は削平されていたものの、3箇所の試掘坑において遺物包含層が確認され、古墳時代前期中頃の甕を含む小土坑のほか、楽浪系土器や三韓系土器が出土した点が注目されます。調査期間中には、合同発掘調査として釜山博物館の鄭澈氏が10日間参加され、有意義な学術交流ができました。



古墳時代前期の土坑



西ノ股遺跡は、中通島の中では珍しく広い南東向きの緩斜面に位置します。昭和60年には、海岸部の埋め立て工事に先立ち発掘調査が行われ、多くの縄文土器や石器が検出されました。

今回の発掘調査は、縄文・弥生時代の集落の解明を目的に、県立上五島高等学校の旧ハンドボールコートにおいて行いました。人力掘削で16㎡を調査しましたが、地表下1.8mの岩盤層まですでに削られ、遺構・遺物ともに確認されませんでした。調査期間中には、上五島高校生徒や卒業生、教員、近隣住民など総計60名の方々に参加・見学していただくことができました。

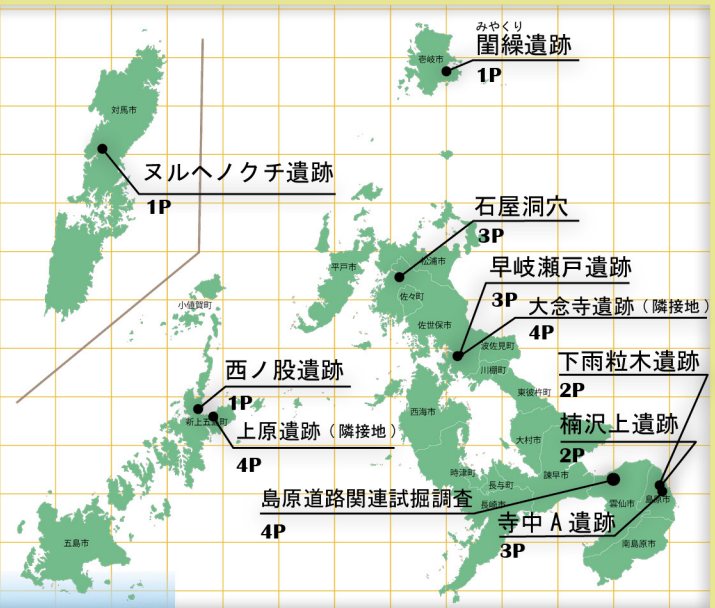
令和4年度 県内発掘調査概要 - 本調査 -

NAGASAKI

島原市
しもあまつぶき 下雨粒木遺跡・楠沢上遺跡
くすざわかみ



島原市
じちゅう 寺中A遺跡



島原半島と諫早中心部をつなぐ高規格道路、通称「島原道路」の建設に伴い、令和4年度は島原市の下雨粒木遺跡と楠沢上遺跡で本調査を行いました。

2つの遺跡は川を挟んで隣り合っており、遺跡の内容も非常に似通っています。今回の調査では、日本の歴史の中でも非常に古い旧石器時代（約30,000～15,000年前）と縄文時代早期（約10,000～6,000年前）の遺構・遺物が確認されています。特に旧石器時代のものがまとまって見付かるのは、島原市ではおそらく初となる貴重な成果です。槍の先端に用いるような「ナイフ形石器」^{がたせつき}「角錐状石器」や、石材を加工する「ハンマーストーン」^{かくすいじょうせつき}等が出土しました。また、沢山の小さな黒曜石が散らばっている石器製作の遺構も確認しました。

島原半島の旧石器人が活動した痕跡が、数万年ぶりに姿を現しています。



寺中町の広域農道沿いにあるこの遺跡からは、主に縄文時代早期（約10,000～6,000年前）と縄文時代後晩期（約3,000年前）の遺物を確認しています。土器の表面に棒を転がして模様をつける「押型文土器」^{おしがたもんどき}や、石などで表面をピカピカに磨く「黒色磨研土器」^{こくしょくまけんどき}、矢の先端に取り付け飛び道具とする「石鏃」^{せきぞく}など、様々な遺物が出土しました。



佐世保市
はいきせと 早岐瀬戸遺跡

河川改修工事に伴い令和元年度から調査を続けている早岐瀬戸遺跡は、佐世保市南部の大村湾と佐世保湾を結ぶ早岐瀬戸に面する遺跡です。ここは古くから水陸の交通が集まる所で人や物の往来で賑わった場所です。現在も春には「早岐茶市」が開かれ海産物や農産物、陶磁器などが周辺の地域から集まります。遺跡周辺は江戸時代の初めに海岸を埋め立てて造られた土地で、平戸往還の宿場町として、平戸や五島方面と大村湾をつなぐ港町として栄えました。

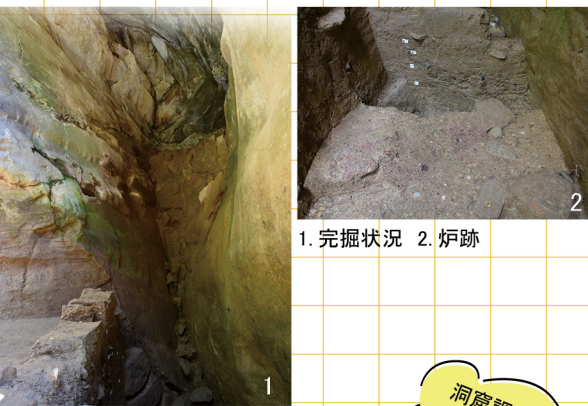
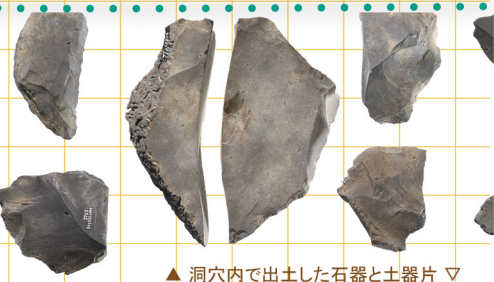


4年目となる調査ではこれまでと異なる道の跡を発見しました。道の跡は幅3m・確認長45mで両側に側溝があり、およそ南北に延びています。また、玉砂利の敷かれた新旧2面の路面が認められ、新しい路面の基盤土からは17世紀末から18世紀初頭の陶磁器が出土しました。他にもこれまでと同様、江戸時代の町屋に伴う遺構が発見され、埋桶は最多の24基にのぼりました。

さらに、江戸時代の整地層の下に堆積する砂層からは、縄文時代後期から弥生時代にかけての摩滅した土器や、磨製石斧・石鏃などの石器が出土しました。

佐世保市
いわやどうけつ 石屋洞穴

石屋洞穴は、国指定名勝・平戸領地方八奇勝の一つ「高巖」の南に位置し、この地域に広がる砂岩帯に形成された洞穴遺跡です。佐世保市近辺ではこうした砂岩帯に形成された洞穴遺跡が30か所以上集中しています。佐世保市内には国指定史跡・福井洞窟や同・泉福寺洞窟があり「洞窟遺跡日本一のみち」としても知られます。

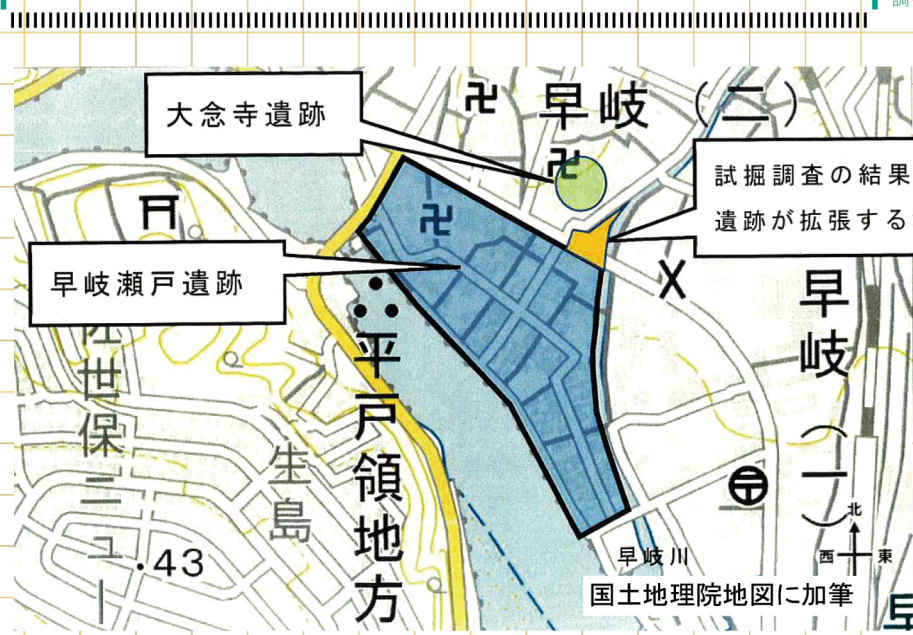


西九州自動車道（松浦佐々道路）建設のため、令和3年度の10月下旬から4カ月かけて発掘調査を実施し、昨年度はその継続調査を実施しました。洞穴内では縄文時代早期から前期の炉跡（焚火跡）が、2mもの堆積層の中で合わせて7層確認できました。出土した石器は330点を超えますが、土器は6点の破片のみでした。手の込んだ石器が少ないことや土器の少なさ等から、拠点として利用された洞穴ではなく、狩りなどで短期的に利用された洞穴であることが考えられます。



発掘された「道の跡」

試掘・範囲確認調査
遺跡の有無や規模・内容・範囲を
調べる部分的な発掘調査のこと



佐世保市
だいねんじ
大念寺遺跡

試掘調査の結果早岐瀬戸遺跡が拡張する場所



えなつぼ
胞衣壺検出状況

大念寺遺跡（隣接地）は佐世保市早岐町にある早岐瀬戸遺跡と大念寺遺跡に挟まれた場所に位置します。埋蔵文化財センターは河川改修工事に伴い令和元年から早岐瀬戸遺跡の調査を行っていますが、早岐瀬戸遺跡の広がりを確認するために大念寺遺跡（隣接地）の調査を行いました。その結果、大念寺遺跡と早岐瀬戸遺跡に挟まれた早岐川右岸で江戸時代の遺物を含む造成土を確認したことから早岐瀬戸遺跡がこの場所まで広がるようになりました。

今回発掘調査を行った場所は、新上五島町有川郷の郊外にある上原遺跡の周辺です。この地区では縄文時代や弥生時代の遺跡がたくさん見つかり、道路の拡幅工事をする前に遺跡の有無を確認するための調査を行いました。

新上五島町
うえはら
上原遺跡（隣接地）



調査では、昔の海岸線に由来する砂層のなかから、弥生時代のものと考えられる扁平な磨製石斧や砥石が見つかり、海の近くで暮らしていた当時の人々の様子を知ることができました。

島原半島と諫早中心部をつなぐ高規格道路、通称「島原道路」の建設に伴い、平成30年度から試掘・範囲確認調査を実施しています。

島原市
島原道路関係

令和4年度は雲仙市の杉山古墳隣接地、（仮称）岡遺跡、大円寺跡隣接地、（仮称）北園遺跡、（仮称）苗河内遺跡、坊屋敷石棺隣接地、岡城（夏峰城）跡と島原市の楠沢上遺跡隣接地、灰ノ久保遺跡で調査を行いました。調査では、黒曜石の剥片や縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、貿易陶磁の欠片や植物の種子などが出土しました。

壱岐高生の
研究発表

埋蔵文化財センターでは、平成29年度から奈良大学が主催する「全国高校生歴史フォーラム」に、壱岐高校東アジア歴史・中国語コースの歴史学専攻生が研究論文を応募する取組を支援しています。

「全国高校生歴史フォーラム」に応募を開始して以来、埋蔵文化財センターが専門とする考古学的な手法で壱岐の歴史を研究してきましたが、令和4年度は生徒たち自身の希望で文献調査や聞き取り調査などを中心に「神宿る島」と呼ばれる壱岐の独特な信仰のあり方について研究を行いました。

壱岐には現在150社もの神社があったり、島内の家々で当然のように床の間ほどの大きな神棚が設けられていたりなど、信仰にまつわる多くの特異性がみられます。壱岐高生はこの特異性に着目し、壱岐における独特な信仰形態の歴史的な変遷とその背景について検討しました。

壱岐の家々にある大きな神棚



地元の方が所有している
壱岐の寺社に関連する文字記録

調べていくと、壱岐の寺社関係者から貴重なお話を伺えたり、地元の方が所有する珍しい文字資料を見せていただいたりなど、壱岐高生だからこそ引き出すことのできた情報がたくさんありました。



調査を通して集めた情報を整理・分析する壱岐高生

集めた情報を丁寧に整理・分析し、考察した結果、応募総数78編の中から上位5編に選ばれ、見事「優秀賞」を受賞しました。

第16回 全国高校生歴史フォーラム



「優秀賞」を受賞した壱岐高生

対馬・五島地域の高校
における授業支援

埋蔵文化財センターでは、令和4年度より壱岐高校だけでなく長崎県内の同じ島嶼部である対馬・五島地域の高校においても授業支援を行っています。

令和4年度は、対馬地域では対馬高等学校で、五島地域では宇久高等学校・北松西高等学校・上五島高等学校で、地域の埋蔵文化財についての概説や遺物実習を中心とした出前授業を実施しました。地元の埋蔵文化財や歴史について、少しでも知ってもらえるきっかけになればと思います。



1. 北松西高等学校
2. 対馬高等学校
3. 宇久高等学校
4. 上五島高等学校



上五島高等学校での
出前授業の様子



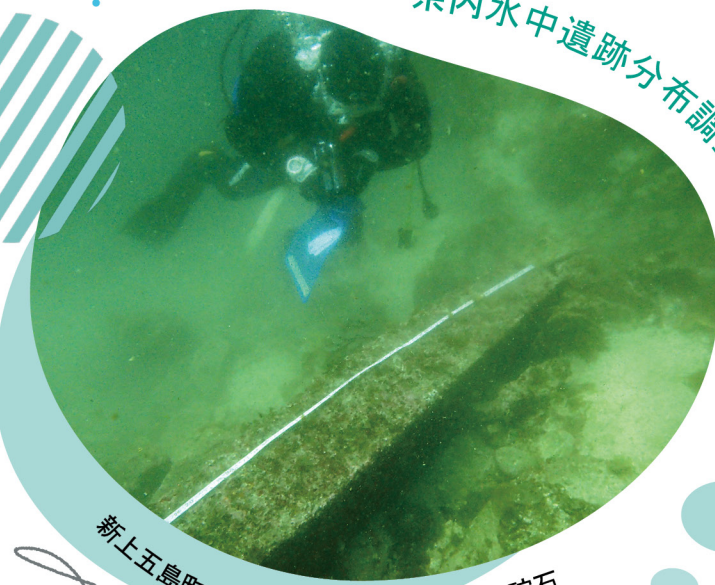
水中文化遺産保存活用推進事業



四方を海に囲まれた長崎県には、海のなかにもたくさん
の遺跡があることが知られています。
水中遺跡は、本県の歴史や文化をよりよく理解するたの
貴重な遺跡ですので、令和3年度からこれらの分布調査や
保護の担い手育成に取り組んでいます。

水中遺跡を探せ！

県内水中遺跡分布調査



新上五島町の祝言島沖合で発見された碇石

令和4年度は、五島列島の海で分布調査を行い、
さまざまな水中遺跡を発見することができました。
五島列島の沿岸部の踏査では、縄文時代の石器
をたくさん採集することができました。石器のな
かには、石製の矢じりや鋸、解体道具なども含ま
れており、海とともに生きた五島列島の縄文人の
生活をよく表しています。
また、新上五島町の祝言島沖合では、水深20～
25mの海域で碇石を2本発見しました。碇石は2m
程度の角柱定形型の碇石で、中世の中国船のもの
と考えられます。佐世保市宇久島の西岸でも、中
世の貿易陶磁器が海の中で多数みつかっており、
大陸と活発に交流していた当時の様子をうかがい
知ることができました。



中世の貿易陶磁器

水中遺跡を知る・楽しむ

あくあく!! 水中文化遺産! わくわく!! 体験講座



会場の様子



令和4年8月には、松浦市鷹島で水中考古学の体験講座を
開催しました。全国から水中遺跡に関心を持った大学生や行
政職員などが参加しました。受講生たちは、水中考古学研究
の第一線で活躍されている講師の話に熱心に耳を傾けていま
した。また、2日目に現地で行った遺跡見学では、鷹島海底遺
跡を直に見て歩き、その魅力に感動していました。
体験講座は、令和5年度も開催します。ここで学んだ若い
人たちが、日本の水中考古学をリードしていくことを期待し
ています。



1. 講演会の様子(熊本大学名誉教授木下尚子先生)
2. 巡回遺跡展展示風景(2F展示室)



令和4年度

長崎県埋蔵文化財センター 巡回遺跡展・講演会

令和4年度長崎県埋蔵文化財センター巡
回遺跡展・講演会「島で生きる。海と暮らす。
—五島列島の遺跡から見た交流と暮らしの
変化—」を9月17日(土)から10月9日(日)
にかけて、新上五島町鯨寶館ミュージアム
にて開催しました。
巡回遺跡展では、五島列島各地の出土遺
物を一堂に集め、五島列島の旧石器時代か
ら中世にかけての歴史を紹介しました。ま
た最終日の10月9日(日)には、鯨寶館ホー
ルにて講演会を行い、県学芸文化課の中尾
篤志係長が五島列島の歴史を概説したのち、
熊本大学名誉教授の木下尚子先生には、五
島列島の遺跡や弥生時代に行われた貝の交
易などについて、ご講演いただきました。
講演会の最後には、当センターで継続的
な支援をしている吉岐高等学校東アジア歴
史・中国語コースの歴史学専攻3年生の2
名による研究発表も行い、昨年度、奈良大
学主催の「全国高校生歴史フォーラム」で、
見事上位5編の優秀賞を受賞した研究内容
について、その後の展開も加えてお話しし
てもらいました。
また、講演会後には、同ホールのステー
ジ上にて巡回遺跡展で展示した遺物の一部
を解説するギャラリートークを行いました。
木下先生や吉岐高生、長崎県職員がそれぞ
れ資料について説明し、ご参加いただいた
皆さまは大変熱心に耳を傾けていました。

釜山博物館との共同研究

長崎県埋蔵文化財センターと韓国釜山博物館は、平成27年5月から友好機関協定を結び、
共同研究を実施しています。これまでは例年「東アジア国際シンポジウム」を実施してき
ましたが、事業の新しい展開として、職員を相互に派遣する「合同発掘調査」と、研究成
果の「研究論集への掲載」を実施することになりました。

令和4年度は、黒曜石を共同研究の対象としま
した。黒曜石は九州西北部を中心として産出し、
韓国南海岸にまで広く運ばれた石材(天然ガラス)
で、旧石器時代から韓国新石器時代にかけての日
韓の交流の様子を知ることができるものです。
「合同発掘調査」は、こうした黒曜石が発見され
た釜山広域市加徳島にある洞理山遺跡において、
令和4年7月11日から15日にかけて実施されま
した。この遺跡のすぐ近くには、韓国新石器時代
の埋葬人骨が多数見つかったことで有名な獐項遺
跡があるため、今回の調査では祭祀遺構の発見が
期待されました。慎重な調査が行われましたが、
遺構・遺物ともに一点も見つからないという結果
となりました。

そこで共同研究の成果として、釜山広域市
東三洞貝塚と凡方遺跡の黒曜石を対象とする
こととし、釜山博物館の金恩瑩先生に、過去
の調査の黒曜石出土層位を、西海市教育委員
会の川道寛氏には、県埋文センターが過去に
実施した蛍光X線分析装置による黒曜石産地
推定の結果を、それぞれまとめていただき、
これにより「研究論集への掲載」を実現させ
ることができました。



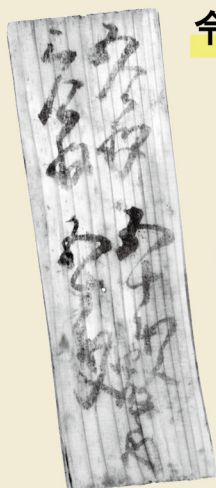
1. 2. 洞理山遺跡調査風景

出土品の 保存処理

令和4年度

発掘調査では土器や石器、陶磁器をはじめとしてさまざまなモノが出土します。その中には木製品や金属製品のような非常にもろいモノもあり、埋蔵文化財センターではそれらの保存処理を行っています。

令和4年度は佐世保市・早岐瀬戸遺跡出土の木簡の処理をご紹介します！



「五合枚 五十本入
三合枚 五十本入」
之内

まずは赤外線カメラを使って墨書部分を撮影します。
赤外線を使うことにより、表面上は見えない墨書部分を映し出すことができます。この木簡は非常に良い状態で出土したためとても鮮明に撮影ができました。

赤外線写真と判読文字

そして、なるべく墨書部分が剥落・消失しないように注意しながら**トレハロース含浸処理法**で処理を行っていきます。

「トレハロース」とは、お菓子や化粧品・医薬品などに使われている甘味料の一種です。熱や湿度に耐性を持ち、本体の保湿やコーティングにも有効です。その特性から文化財の保存処理に広く使用されています。処理工程はトレハロース水溶液を作り、出土木製品に含まれている水分と置換させていきます。水溶液の濃度を徐々に上げ一定の濃度に達したら取上げ、扇風機などを使って風乾し結晶化させます。白く固化し重量が安定してきたら、最後にスチーム洗浄機を使って表面を処理します。こうして貴重な文化財を未来へ残し、展示や研究に役立てられるようになります。



【処理前】



【処理後】

オープン 収蔵 展示 紹介

令和4年度のオープン収蔵展示は、県内の石鍋製作遺跡から見つかった石鍋未成品を中心に、石鍋にまつわる出土品を貴重な調査写真とともに紹介する「石鍋ものがたり-長崎における石鍋の生産と流通-」展と、発掘調査によって見えてきた「2つの長崎奉行所」の姿を、西役所跡、立山役所跡から出土した貴重な出土品とともに紹介する「発掘 長崎奉行所-よみがえる2つの奉行所-」展を開催しました！

現在は、佐世保要塞砲兵連隊衛戍病院跡の発掘調査成果を中心に、近代の長崎県の歴史を紹介する「100年前のNAGASAKI-遺跡が伝える近代の長崎県-」展を開催中です。

開催中！

2023年

3月3日(金) - 6月25日(日)

—支国博物館1階・オープン収蔵展示室

